



Higashimurayama City International Friendship Association

東村山市国際友好協会 第122号

令和元年度決算と令和2年度予算

1. 収入 (単位:円)

項目	R元年度決算額	R2年度予算額
会費	1,530,000	1,530,000
英会話講座収入	2,145,000	2,145,000
バザー事業収入	359,000	300,000
補助金	470,000	470,000
学生交流納入金	0	0
寄付金	30,000	0
繰入金	359,292	0
繰越金	1,992,887	2,218,825
雑収入	51,315	0
合計	6,937,894	6,663,825

2. 支出

項目	R元年度決算額	R2年度予算額
会議費	22,020	30,000
消耗品費	66,358	100,000
印刷費	49,818	100,000
渉外費	115,473	120,000
通信費	39,821	50,000
使用料	0	50,000
備品費	0	70,000
親善訪問団派遣費	894,593	465,000
学生受入費	849,638	1,390,000
訪問者受入費	0	0
教育交流費	0	0
バザー費	173,740	200,000
英会話講座費	1,441,188	1,540,000
イ市行事協力費	0	0
日本庭園造園協力費	0	10,000
広報宣伝費	533,687	650,000
会員交流費	284,591	350,000
会員拡充費	86,404	100,000
ホームページ管理費	136,648	140,000
諸支出金	25,090	160,000
積立金		
繰出金		
予備費		1,138,825
合計	4,719,069	6,663,825

令和2年度事業計画

- ☆英会話講座の開講
前期・後期とも中止
- ☆イ市“学生訪問団”受入事業…中止
- ☆“親善訪問派遣団”派遣事業…中止
- ☆広報紙「人と人」の発行
7月(中止)、11月、3月(全戸配布)
- ☆市民産業まつり(バザー出店)…中止
- ☆クリスマス会…中止
- ☆役員・委員研修会…中止
- ☆その他、年間を通して
- *新型コロナ感染予防のために変更あり

市民表彰受賞おめでとう
令和2年度東村山市市民功労表彰の公益部門で当協会の川村弘史氏、肥沼すみ子氏の表彰が決定しました。表彰式はコロナにより延期され、10月17日(土)に行われました。

川村弘史氏は会員交流委員会と広報委員会が活動し、その間に何期も委員長を務めました。現在も広報委員会の副委員長として豊富な知識と優れた見識で腕を振るっています。肥沼すみ子氏は英会話委員会の副委員長を長く続け、生徒と講師の調整役として活躍しました。会計理事として協会運営にも携わり、現在は会員拡充委員会の副委員長を務めています。両氏とも25年以上にわたりイ市との友好親善交流、ホストファミリー活動及び各種受入事業を通じて国際親善交流を実践して、友好に大きく貢献してきました。

日頃より本会活動にご支援・ご協力頂き有難うございます。さて、本年は当初より新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、そのため社会活動や経済活動が徐々に制限されています。現在半年以上経ちましたが依然として終息の兆しが見えません。本会では、3月の役員会で総会の自粛、学生交流事業の中止、英会話講座の中止等を決定しましたが、これらは長い歴史があり、本会にとって重要な事業です。その後、会議の開催が儘ならず今後の予定を決めかねていますが、来年は役員改選です。このことを考えると、感染の終息が見えなさら本会の他の活動も少しずつ再開することになりますので、その節は今迄以上のご支援ご協力をお願い致します。会員の皆様には様々な点で不自由な状況が続くと思われませんが、ご健勝で過ごされますよう祈念致します。

これらのことを考え合わせ、感染予防に十分配慮して10月より役員会を再開いたしました。学生交流事業はイ市姉妹都市委員会と情報交換しながら実施を前提に準備を進めます。また、英会話講座は講師の都合を確認し募集の準備をしていくこととなります。なお、感染の終息が見えなさら本会の他の活動も少しずつ再開することになりますので、その節は今迄以上のご支援ご協力をお願い致します。会員の皆様には様々な点で不自由な状況が続くと思われませんが、ご健勝で過ごされますよう祈念致します。

感染予防に十分配慮して
会員ならびに関係の皆様へ
会長 折笠 広樹



川村氏(左)・肥沼氏(右)

会費納入御礼

当協会の活動にご理解とご協力を賜り、多くの賛助会員・会員の皆様から会費の納入を頂き、誠に有難うございました。
(会員拡充委員会)

賛助会員さま(敬称略・アイウエオ順)
石黒文夫、石津智子、市川正史、大野 茂、角田孝司、川合萬次郎、木島安明、桜井喜吉、澤田 泉、シュクラ・ハルコ、関 弘子、當間義夫、細淵一男、丸山キミ、肥沼和男、アイリス薬局、(株)あさひや、(有)一翠、エネックス(株)、折笠歯科医院、割烹「義」、(有)小町総業・小町寿夫、(株)三光商会、JA東京みらい東村山支店、東京交通(株)、東京東村山ロータリークラブ、東光建設(株)、(有)當間石材店・當間洋吉、(株)千代田防災、(株)長坂式典センター、(有)東村山給食センター、(公社)東村山市医師会、(一社)東村山市歯科医師会、(社)東村山市薬剤師会、東村山青年会議所、東村山青年会議所シニアクラブ、東村山むさしの認定こども園・野澤秀夫、桜井憲一、武蔵野労務管理事務所、山崎製パン(株)埼玉第二東村山工場、(社福)コロニー印刷



あの人はいま

第4回学生派遣団員

佐藤由美子
私にとって、インディペンデンス市への派遣は、初めての海外旅行でした。大変緊張していたこと。観るもの全てが新しく、海外の生活、食事、習慣、全てが驚きだったこと。英語も満足に出来ない中、皆さんに優しく接して頂いたことが思い出されます。

ホストファミリーの方とは、その後もしばらく連絡をとっており、10年位後にシカゴに留学した際、お嬢さんの結婚式にブライズメイドとして参加させて頂きました。

◆訃報 当協会顧問宮澤和人氏(86)が10月27日に逝去されました。氏は協会創設時のメンバーで、イ市での姉妹都市提携調印式にも出席しました。当初から副会長を務め協会の発展に尽力しました。ご冥福をお祈りします。

東村山市の国際友好協会が40年以上活動を続けていることは、本当に素晴らしいと思います。私自身、皆様のご尽力、サポートにより、大変貴重な経験をさせて頂きました。何十年経過後でも、今後もこの経験は忘れられないと思います。今後も国際交流の一環として人的な交流が継続する事を願っています。

ラーナ・ホワイトさん追悼特集 ありがとう あなたの友情を 忘れません



姉妹都市である米国ミズーリ州インディペンデンス市のラーナ・ホワイトさんが3月2日に逝去されました。ラーナさんは両市を姉妹都市として結びつけ、姉妹都市の絆をゆるぎないものとするため長年尽力されました。彼女の生涯を紹介し、ゆかりの方々に追悼の思いをつづっていただきます。

「橋を架けた人」
イ市新聞(イグザミネー)より

本年3月4日付けのイ市地元新聞にラーナさんの追悼記事が「友達を作り、橋を架けた人」ラーナ・ホワイトさんの生涯として掲載されました。

ラーナさんが3月2日に88歳で亡くなったこと。彼女がアメリカの軍人と結婚したことなどの数奇な生い立ちや東村山市との姉妹都市提携に至る経過に深く関わったことが記されています。

その後両市民の交流は5年毎の市民の相互訪問や毎年の学生の交流などで40年以上にわたり連続と続いています。ラーナさんは被爆・敗戦を経験している日本の家庭を訪問する心得を話し、文化の違いによってお互いに不信感が生じないように心を砕き平和親善大使として積極的に活動したことを伝えていきます。



調印式



1950年
東京にて



ラーナ・ホワイトの木



1998年イ市にて



筆者(左)

ラーナ・ホワイトさんを
偲んで 顧問 大野 茂

ラーナさんとの初対面は1984年の日本庭園起工式。1974年に石津氏とラーナさんの出会いが、両市交流の源となり、1978年に姉妹都市が実現。40数年に至る安定した交流は両市民の誇りです。姉妹都市委員として36年間、献身的に活躍され、退任後も、頭と体の動く限り、お手伝いをしたいと言っていました。家を処分し、次男と暮らし、フロリダや西海岸への次男との旅行を楽しみにしていた様です。

西暦	元号	ラーナ・セツコ・ホワイトさんの生涯
1931	昭和6	福岡県小倉で生まれる
1952	昭和27	ロバート・ホワイト氏と結婚
1958	昭和33	インディペンデンス市に居住
1960年代		長野県とカンザス州の姉妹交流に尽力する他いくつかの姉妹都市交流に関わる
1978	昭和53	イ市と東村山市の姉妹都市提携調印式でサポート(カンザスシティ警察署)
1994	平成6	東村山市、ラーナさんに特別名誉市民の称号を贈る
1998	平成10	20周年記念訪問団で来日し、市民表彰受賞
2008	平成20	30周年記念訪問団で来日。長年の貢献に感謝して市民センター敷地にホワイトの名にちなんでヒメシャラの木を記念植樹 JSCC(日本姉妹都市委員会)委員を引退時、イ市の市役所内の日本庭園に石のベンチを寄贈する
2015	平成27	姉妹都市運動貢献により表彰される イ市では8月9日を「ラーナ・ホワイトデー」と制定
2020	令和2	3月2日 逝去 享年88歳



筆者(左端)とラーナさん(左から2番目)

ラーナさんとの思い出
徳永 泰子

夢叶わず、他界したこと誠に残念に思います。2018年の40周年記念のイ市での祝賀会等の行事で見たラーナさんの笑顔が最後とは。彼女の功績は永遠です。

東村山市国際友好協会第一回訪問団として、イ市庁舎前の植樹に参加した折にラーナさんと初めて会い、大変お世話になりました。

ラーナさんは長年の友人
キャシー・ベスト

姉妹都市交流のプログラムはインディペンデンスを『3つの街道の町』から日本への道を加えた『4つの街道の町』へと飛躍させました。ラーナさんがこのプログラムに対して尽くしてくれた愛情と献身は地域全体にとつてどれだけ有益だったか計り知れません。彼女のプログラムへの献身によって多くの両国の学生や大人がお互いの文化を学ぶ機会を得ることができました。

「イグザミネー」より抜粋
JSCC 前委員長
ジュネイン・セグラ・ブラウン
平和の親善大使として精力的に活動し、周りの人に愛情を注ぐ姿はあの小柄な彼女からは想像もできません。ラーナさんは日本で友人を作るにはどうしたらいいかを教えてくださいました。日本の家庭ではどう振る舞えばいいか、第一印象をよくするにはどうすればいいか、(原爆投下を決定した大統領)ハリー・トルーマンの故郷から来た友人としてどう振る舞えばいいか等です。家庭こそお互いの文化の違いが現われる場所であり、そ

の違によって関係が壊れてしまう場所でもあるからです。
「イグザミネー」より抜粋
お知らせ
○人事異動(市民部のみ)
荒井知子課長は、総務部次長へ異動、後任は大西弥生氏(こども・教育支援課長より)、新規採用として東山翠さんが着任。
○姉妹校回田小学校の曾我部多美校長は退職、後任は福留潮氏が着任。
○コロナ禍で総会及び交流会、姉妹都市との交流事業、英会話講座、産業まつり、クリスマスマスマスパーティ、役員・委員研修などの行事・事業が中止となりました。

●計報 イ市の前市長ダン・ライマル氏(78)が8月12日に逝去されました。ご冥福をお祈りします。
編集後記
本号は、イ市との姉妹都市交流を築いたラーナさんの功績を称えた追悼特集です。彼女の友好の意思をコロナに隠せず次代の人々に引き継いで行きたい。

人と人

発行：東村山市国際友好協会
編集：広報委員会

東村山市本町 1-2-3
東村山市役所内
☎393-5111 内線2558・2559
http://www.h-ifa.com/